

2012年度(4月～2月)政務調査費事業報告書

日本共産党県議団

調査研究費 総合計 2,668,624 円

<主な調査研究>

4月10日～11日 福井県 大飯原発調査

大飯原発の現地調査、及び地元住民運動の人たちとの懇談を行った。

参加者：石坂、高村議員

合計 74,003円

4月25日 小水力発電の取り組みについて「水土里ネットながの」と懇談

長野県土地改良事業団連合会、通称「水土里ネットながの」と、県内の小水力発電について懇談を行った。H17年度から小水力発電に取り組んできたが、本年4月から推進室を設けて力を入れていくとのこと。全県38箇所を調査し、その内の6箇所について、国の補助金を使って実施中である。

事業予算を増やす必要があること、またゴミの除去方法など様々な問題点や苦勞について報告があった。県議団からは、視察してきた県内各地の取り組み状況や、設備開発は民間事業所を応援しながら進めてほしい事などを提案し、意見交換した。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員、会派職員

合計 11,030円

5月10日 自然エネルギー活用の調査 野沢温泉村と馬曲川発電所

野沢温泉村の「地域新エネルギービジョン」について説明を受けた。

基本方針として、①地域特性に合った新エネルギー ②環境保全と地域振興につながるもの ③村民・事業者・行政をつなぐ絆としての導入 ④災害時に役立つ、を掲げ、村民アンケートに基づき構築されたものであり、村の全体像、将来像を示している点で大変優れたものである。

木島平村の馬曲温泉は、馬曲川からの水量を取り込んで年間約80万kw/H発電しており、温泉施設の電力をまかなった上で余った電力を売っている。管理は木島平村が行っており、自然エネルギーで注目を浴びやりがいがあるとの職員からの熱心な説明があった。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡、会派職員

合計 27,030円

5月23日～25日 大分県九重町八丁原発電所

・大分県日田市の自然エネルギー発電調査

5月24日 北九州電力八丁原発電所（大分県九重町八丁原）

昭和52年1号機（55,000kw）、平成2年2号機（55,000kw）が完成。日本最大の地熱発電所出力（110,000kw）蒸気井で地下から取り出した蒸気でタービンを回す。八丁原発電所は、当初から蒸気井を斜め堀で建設されており、全国的にも珍しく参考になった。平成18年から稼働している「地熱バイナリー発電」2,000kwも低い温度の地熱流体を熱源としており、注目した。

5月25日 大分県日田市の自然エネルギー発電の取り組み

日田市は多種多様な自然エネルギーの実用例を持っている先進地。日田市の施設と民間企業の取り組みを視察した。

①日田市浄化センター視察

汚泥処理中に発生する消化ガスによる発電(95kw)、施設内太陽光発電(20kw)

②㈱日田ウッドパワー日田発電所視察

木質バイオマス発電

最大出力12,000kwのうち2,000kwは自家消費、残りを売電

参加者：石坂、小林、和田、両角、藤岡議員

合計 529,485円

6月5日 浅川ダム断層再調査

5月31に県が行った「浅川ダムサイトで発見されたF-V断層は活断層と断定できない」との発表を受けて、信大名誉教授の小坂共栄氏と日本地質学会会員の松島信幸氏に、断層の再調査を依頼。7時間に渡る現地調査を行った。結果、「明瞭な活断層の証拠がある」とする小坂氏等と県との相違点を明らかにした。

参加者：石坂、和田議員、会派職員

合計 74,360円

6月15日～16日 岩手県住田町の復興住宅調査

岩手県住田町が建設した、県産材戸建復興住宅の調査を行った。岩手県においては、従来から地元産の木材を使っての戸建ての仮設住宅を検討していたが、今回の東日本大震災を受けて、支援金を活用し、町の専決予算で町有地に仮設住宅の建設を行った。全国初の木造戸建て仮設住宅93戸を建設。それを可能にした町の「地域循環型システム」について説明を受けた。

参加者：小林、和田、藤岡議員

合計 132,462円

8月9日 新潟県立大学調査

県短の4年制化に向けた議論が進むなか、県短から4年制化にした県立新潟大学を調査し、4年制への移行の経過と大学の現状等をお聞きした。

参加者：石坂、和田、両角、藤岡議員

合計 33,360円

8月19日 オスプレイの飛行訓練ルートについての現地調査

政府が発表したオスプレイの飛行訓練ルート「ブルールート」に該当する各地域から、低空飛行に対する不安の声が上がっているため、各地の村長をはじめ自治体職員や地元議員、住民から要望を聞くなど、ルートに沿った現地調査を行った。

(木曾町→白馬村→戸隠→信濃町→飯山市→木島平村)

参加者：石坂、高村、和田、藤岡議員

合計 28,485円

8月21日～22日 山梨県のリニア中央新幹線工事と自然エネルギーの取り組み

笛吹市 リニア中央新幹線工事の進捗状況や問題点、地域への影響などについて市の職員から説明と現地の案内を受けた。

その後、住民の皆さんとリニア問題での懇談を行った。

米倉山夢ソーラー館 山梨県の職員から、県の自然エネルギーの取り組みについて説明を受ける。また、太陽光発電所と館内の見学を行った。

県の発電所 若彦トンネル湧水発電所を見学。

都留市 市の自然エネルギーの取り組みについて説明を受ける。

様々な小水力発電施設、エコハウスを視察。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、会派職員

合計 85,910円

8月27日 千葉県自然エネルギーの取り組み、多摩市の公契約条例の調査

千葉県が行っている自然エネルギーの取り組みと発電ビジネスについて、県の担当課（商工労働部産業振興課）から説明を受け意見交換した。

千葉県多摩市が作った公契約条例について、条例の特徴や制定に向けての運動や経過と今後の課題などを調査した。この条例の特徴は、①労働者の生活の安定を図るため指定管理者による業務も含めた②一人親方や派遣労働者も対象にした③受注者が守る法令を明らかにした。④労働者の代表が審議会に加わって意見を述べる。など

参加者：石坂、小林、両角、藤岡議員、会派職員

合計 91,050円

9月2日～4日 釧路市の自立支援の取り組みと美幌町の自然エネルギー調査

釧路市が行なっている行政と民間が連携した生活困窮者支援（生活保護から自立支援へ）の取り組みについて調査を行った。釧路市役所で概要説明を受け、その後、NPO地域生活支援ネットワークサロンにて現地調査を行った。一人一人が自立支援プログラムに基づいて、暮らすことから就労、自立までサポートするもの。

美幌町では、森林資源を活かした自然エネルギー事業を視察した。

参加者：石坂、高村、和田、両角、藤岡議員

合計 605,580円

9月7日 県建設業協会との懇談

建設業協会からは、「受注減や低価格入札、公契約モデルの一般管理費の低さなどが経営を圧迫し、労働条件の切り下げを生む負の連鎖があり、入札制度の改善が必要」など実情が報告された。又、熟練職人など慢性的な労働力不足があるとのこと。

県議団からは、公契約条例の制定と住宅リフォーム助成制度などを説明し、意見交換した。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員

合計 27,190円

9月11日 医療・介護従事者との懇談

医療、介護、医学生奨学制度、無料低額診療などについて懇談した。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角議員、会派職員

合計 28,220円

9月18日 富士見町の教育の町づくり、自然エネルギー施設調査

富士見町教育委員会の「教育の町づくり」推進事業、特にこの夏に取り組んだ「無料塾」の説明を受け意見交換した。

富士見町が計画しているメガソーラー予定地と「太陽集光実験施設」を視察した。

参加者：石坂、小林、和田、両角議員、会派職員

合計 25,590円

10月11日 上田市立産婦人科病院との懇談

上田市立病院を閉鎖から守りたいと大きな市民運動が起こり、存続が決まり4月から開院した上田市立産婦人科病院。院長の廣瀬ドクターから、病院の理念や今後の課題をお聞きし意見交換した。

信州上田医療センターとの連携などのソフト面、整った施設、妊婦と赤ちゃんにとっての理想的な環境を感じた。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角議員、会派職員

合計 36,140円

11月5日 生活保受給者支援事業（アスポート）の調査

埼玉県が行っているアスポート事業、特に「教育支援員事業」を中心に調査した。

参加者：高村、和田、藤岡議員、会派職員

合計 46,900円

12月27日 栄村役場にて震災復興の状況と復興住宅の調査

11月に村営の復興住宅が完成し30世帯の入居が行われた。島田村長から復興状況と復興住宅建設の経緯などをお聞きした。この住宅は住み慣れた集落のコミュニティーを大切に集落毎に建設されており、高齢者から若い人まで配慮した住宅である。

「川上村根羽村大桑村など県内各地から木材が届けられた」との村長からの感謝の言葉があり、集会所を含め案内いただいた。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角議員、会派職員

合計 35,890円

1月24日～25日 浅川内水対策のため現地調査と学習会

国土研究会の宇民正氏と共に、浅川改良事務所の案内で浅川ダムを視察。そのあと、浅川の下流を調査した。

翌日、下流の住民の皆さんと共に浅川下流、排水機場などを現地調査し、長沼公民館で宇民氏からの報告を含めた、内水対策の学習会を行った。

参加者：石坂、高村、和田、両角、藤岡、会派職員

合計 139,880円

2月11日～13日 沖縄基地とオスプレイ調査（地元議員と平和委員会の案内）

11日 普天間基地、左真下ゲートからオスプレイを調査

嘉手納基地を望む

12日 高江の座り込み、辺野古のテント村視察

13日 県庁の基地対策課から米軍基地問題全般の説明を受ける

普天間基地は周囲が住宅密集地、市内の真ん中の一番いい場所にある。当日はオスプレイが3機あったがこれから12機増やして合計24機配備とのこと。途中、2004年に米軍機が墜落した沖縄国際大学に寄る。焼けただけだ樹木が残されている。

羽田空港の1.6倍の嘉手納基地は巨大で高台からも見渡せない。ヘリポートなど多数の施設ある。高江のやんばるの森は自然豊かな森、そこを米軍が自由に訓練している。4000ha 返還の代わりに6つのヘリパッドを建設する計画があり、阻止するために住民が24時間監視している。2007年から運動しているとのこと。辺野古のテント村ではおじいおばあが「死んでも頑張る」と座り込みをつづけている。

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員、会派職員

合計 480,615円

研修費 総合計 2,353,725円

<主な研修>

5月12日～13日 自治体議会政策学会主催「自治政策講座 in 東京」

テーマ：持続可能な社会と自治体の役割—社会の仕組みと環境

参加者：石坂、和田議員

合計 72,600円

5月16日～17日 地方自治経営学会研究大会

テーマ：明日の日本、明日の地方自治 その課題と方向

参加者：石坂、高村議員

合計 65,230円

5月20日 浅川ダム断層の学習会

小坂、松島氏が県に提出した公開質問状について学習した。

講師：小坂共栄氏、松島信幸氏

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員

合計 87,455円

7月13日 浅川ダム断層の再調査結果についての学習会

講師：小坂共栄氏、松島信幸氏

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員、会派職員

合計 49,210円

8月24日 第4回生活保護問題議員研修会

テーマ：生活保護200万人時代地方行政に何ができるか

参加者：和田議員

合計 38,081円

9月16日 子ども・障がい者の医療費窓口無料化 県民シンポジウム

主催：福祉医療給付制度の改善を進める会

参加者：石坂、小林、和田、両角議員

合計 16,940円

10月10日 2011年度の決算学習会

講師：佐藤久氏

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員

合計 35,880円

10月13日 浅川ダム県民学習会～改めて浅川ダムの安全性と必要性を問う～

主 催：日本共産党県議団

講 師：小坂共栄氏、松島信幸氏

参加者：石坂、高村、和田、両角、藤岡議員、会派職員

合計 467,030円

10月29日～30日 第10回全国地方議員交流会

特別報告：地方財政の分析から見えてきたもの 他

参加者：石坂、和田議員

合計 171,220円

11月12日 「重要文化財 牛伏川階段江」防災遺産シンポジウム

主 催：長野県、松本市ほか

参加者：高村、両角議員

合計 8,720円

1月18日 第8回長野県地方自治政策課題研修会

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員

合計 19,340円

1月30日～31日 全国小さくても輝く自治体フォーラム in いわき市

参加者：石坂、高村、和田議員

合計 127,290円

2月17日 ストップ！格差・貧困 生活支援ネットワーク交流集会

県内で生活困窮者の支援を行っている反貧困ネットワーク信州などの民間団体や、パーソナル・サポートセンター、長野県の健康福祉部地域福祉課などに参加をいただき、これまでの取り組みの成果や課題の報告を行った。また吉永氏より「生活保護の切り捨ては何をもたらすか」と題して講演をいただいた。

貧困の広がりや深まりから支援活動の対象が多岐に渡っており、居場所づくりや無料塾など新しい取り組みについて報告がされ、民間と行政のいっそうの連携、ネットワークの構築が確認された。

主 催：日本共産党県議団

講 師：全国公的扶助研究会会長 吉永純 氏

参加者：石坂、小林、高村、和田、両角、藤岡議員、会派職員

合計 1,070,058円

会議費 総合計 768,180円

資料作成費 総合計 169,275円

資料購入費 総合計 443,650円

広報費 総合計 4,958,894円

事務費 総合計 1,113,393円

人件費 総合計 5,816,260円

以上